富山県立中央病院
やさしさ・信頼・安心

地域連携室だより

令和5年11月号
No.257

〒930-8550　富山市西長江2-2-78 | TEL 076 (424) 1531 | https://www.tch.pref.toyama.jp/

爽秋の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
今月の掲載は、消化器内科、腎臓・高血圧内科、
在宅療養支援室・フットケア外来です。

YouTubeで当院の「今」をお伝えしています。
是非ご覧ください。

診療科の紹介　消化器内科

消化器内科スタッフ（2023年10月撮影）
後列左から春藤医員、森医員、高木医長、須田医員、島滝初期研修医、八木初期研修医
中列左から朝日向医長、在原部長、桃井医員、岡初期研修医、木谷初期研修医
前列左から小川部長、松田（充）部長、酒井部長、松田（耕）部長

外来受診表

	月	火	水	木	金
初診	在原	朝日向	酒井	松田（充）	松田（耕）
再診10	朝日向	在原	松田（耕）	松田（耕）	朝日向
再診11	松田（充）	酒井	松田（充）	酒井	在原
再診12					須田/森
再診13	桃井/春藤				

◆診療体制

消化器内科部門は、酒井明人部長、松田充部長、小川浩平部長（腫瘍内科）、松田耕一郎部長、在原文教部長、高木宏明医長（腫瘍内科）、朝日向良朗医長、桃井午左衛門医員、春藤英明医員、須田哲史医員、森勇人医員（救急科）の計11名の医師で外来・入院診療および消化器検査・治療を担当しています。当院は日本肝臓学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設に認定されています。日頃の診療のみならず研修医の教育にも意欲的に取り組んでいます。また富山県の肝疾患診療連携拠点病院にも指定されており、県全体の肝炎対策・診療連携・研修会等のサポートにかかわっています。

現在の外来担当は、表のとおりです。

◆診療内容のご紹介

消化器内科では、前記スタッフ（日本消化器病学会専門医および日本消化器内視鏡学会専門医7名、日本肝臓学会専門医3名）にて消化管・肝胆膵疾患全般にわたり常に最新の診療を行うことを心がけています。特に、消化器がんの診断・治療と炎症性腸疾患や肝がんを含む進行肝疾患など難治性消化器疾患の診断・治療に力を入れると同時に、経乳頭アプローチが困難な閉塞性黄疸に対する超音波内視鏡を用いたアプローチなど内視鏡の難しい一般疾患の治療にも工夫を重ねています。

肝臓病領域に関しては、飲み薬だけで治ると言われる、C型肝炎のインターフェロンフリー治療を300例以上行っています。最近は診断時にすでに進行した肝細胞癌が増えていますが、ガイドラインに基づいて外科手術、局所治療あるいは化学療法（がん免疫療法、分子標的薬治療）も多数行っています。

消化管領域に関しては先端医療棟での十分な内視鏡室スペースのもと、拡大内視鏡や特殊光内視鏡（NBI検査）による癌の精密診断を積極的に行っています。食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は累計3000例以上行っており、豊富な経験のもと他施設で困難と言われた症例への対応も可能です。

胆膵疾患領域では、超音波内視鏡下穿刺細胞診（EUS-FNA）を積極的に施行し、従来は組織診断が困難であった膵癌、胆嚢・胆管癌などに治療前診断を行っています。ダブルバルーン小腸内視鏡を用いた、再建腸管や膵胆管術後症例への膵胆管検査・治療では全県下の病院より紹介をいただいています。また経乳頭アプローチが困難な閉塞性黄疸に対して超音波内視鏡を用いて肝内胆管と胃に瘻孔を形成する胆道ドレナージ術（EUS-HGS）も施行しています。

消化器癌の化学療法は、がん薬物療法専門医を中心に、新しくなった通院治療室で外来化学療法を行っています。近年はがん免疫療法の薬剤が増え、毎年更新されるガイドラインに準拠し治療法の選択を行っています。

この他、患者さんやご家族に病気に対する正確な知識と理解を得ていただけるよう肝臓病教室を年４回、炎症性腸疾患教室を年２回定期的に開催しています。最新治療の情報も提供しており、治療を迷う患者さんが教室出席をきっかけに前向きになることもありますので是非ご紹介ください。また肝臓サロンという少人数での集まりも開催しています。

◆進行肝細胞癌に対するがん免疫療法

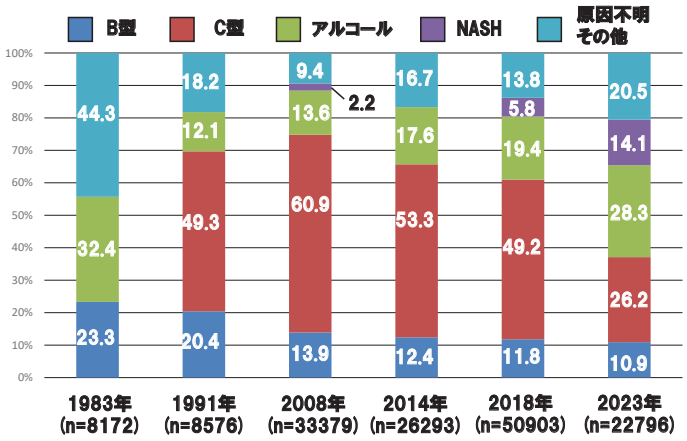

図1　肝硬変の成因の推移（2014年の報告では「原因不明その他」の中に「NASH」が含まれています）

C型肝炎への効果の高い治療薬の出現と社会状況の変化で肝臓病の状況が変わってきています。図1に学会で集計された肝硬変の成因を示します。大昔は肝硬変の原因といえば「お酒」でしたが、C型肝炎発見以降はC型肝硬変が第一位でした。しかしC型肝炎に対するインターフェロンフリー治療により100%近い症例が治るようになると、C型肝炎から肝硬変になる症例が減少してきました。本年はアルコール性が再度最も多い原因となり、また近年問題の非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）が2008年2.2%、2018年5.8%、2023年には14.1%まで増加しており、B型肝炎を越えました。

肝硬変の大きな合併症は肝細胞癌です。ウイルス性肝炎を背景とした患者は、定期的にエコーやCTなどが行われ比較的小さいサイズで肝細胞癌が発見され、外科切除やラジオ波焼灼術、あるいは肝動脈化学塞栓療法などの局所療法が可能でした。アルコール性症例は定期通院していない症例も多く、NASH症例は肝硬変になっていることが把握されず、非常に進行した状態で診断される傾向があります。このため治療法も化学療法適応が増えています。以前は肝動注療法、その後ソラフェニブやレンバチニブなどの分子標的薬が主流でしたが、進行を抑える効果はあるものの、腫瘍が縮小して長期生存はするのは難しい状況でした。近年、免疫チェックポイント阻害剤を用いたがん免疫療法の発展により様々ながんで保険適応となっていますが、肝細胞癌でも2020年9月にアテゾリズマブ＋ベバシズマブ、2022年末にデュル

バルマブ+トレメリムマブが承認されています。がん免疫療法は従来より縮小効果が高く、効果の持続期間も長いため生存期間延長も期待されますが、今まで経験の無かった免疫関連副反応（irAE）があり、時に重篤で死亡例もあります。

地域より紹介いただいた、高齢の進行肝細胞癌に対してがん免疫療法を行った2例を紹介します。症例1は糖尿病、高血圧で近医通院中に腹痛で画像検査を行うと巨大肝腫瘍を認めたため、当科紹介されました。肝炎ウイルスは陰性でAFP値は320,000ng/mL以上、肝細胞癌は肝静脈から下大静脈、さらに右心房に浸潤し、腫瘍塞栓による突然死の危険がありました。アテゾリズマブ＋ベバシズマブ療法を開始すると速やかにAFP値が低下し、がんの縮小が得られました。途中、全身の発赤皮疹で休薬しましたが治療を継続しています。症例2はC型肝炎が未治療の高齢者で、足のむくみで近医受診、巨大肝腫瘍を認め当科紹介されました。PIVKA-II値が60,000mAU/mL以上、肝右葉10㎝以上の肝細胞癌で肝下面より突出しており破裂の危険がありました。むくみはがんによる下大静脈の圧迫のためでした。アテゾリズマブ＋ベバシズマブ療法を開始すると速やかにPIVKA-II値が低下し、むくみも改善、腫瘍の著明な縮小が得られました。途中、蛋白尿でベバシズマブを休薬しましたが治療を継続しています。

紹介した2例は軽度の副作用のみで高い効果が得られていますが、一方、irAEでの死亡例も経験しています（免疫関連肝炎）。採血項目などは腫瘍内科主導で検討した項目でirAEを毎回チェックし、速やかに対処することで治療を継続しています。irAEが無いとむしろ従来より副反応は少なく、高齢者でも十分効果が期待できます。

（文責：酒井）

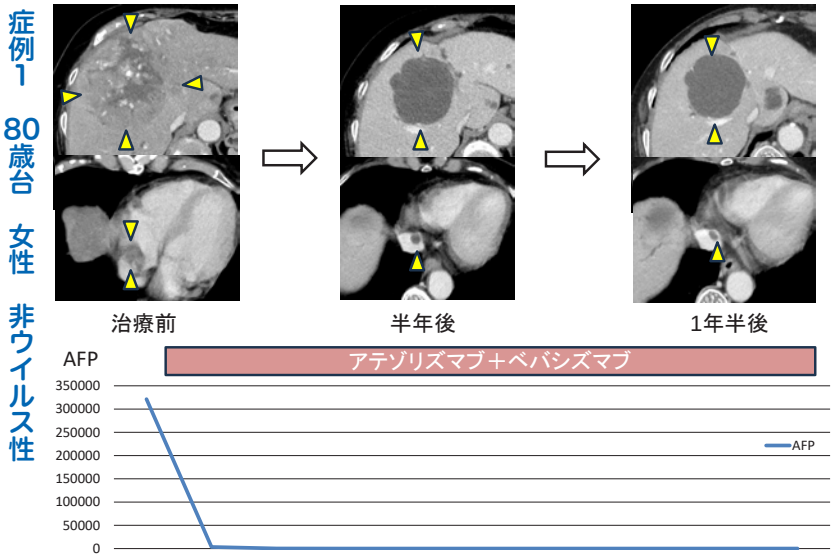

図2　症例1
右心房浸潤した
肝細胞癌への
がん免疫療法の経過

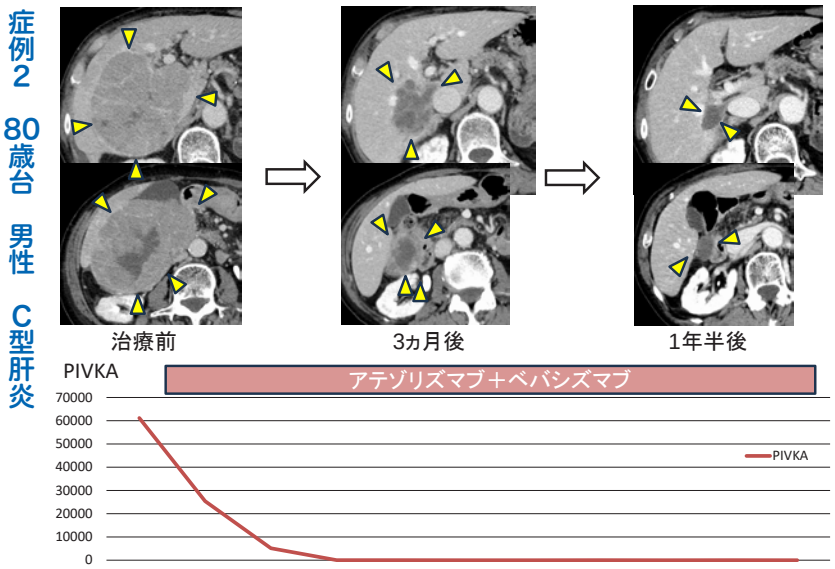

図3　症例2
10cmを越える
巨大肝細胞癌への
がん免疫療法の経過

腎臓・高血圧内科のご案内

専門領域と治療内容の特徴

腎臓・高血圧内科では、検尿異常、腎機能障害、本態性および二次性高血圧症、ANCA関連血管炎や全身性エリテマトーデスなどの膠原病の診療を担当しています。腎疾患では、腎生検による組織診断から、腎不全、血液透析、腹膜透析、腎臓移植の管理まで幅広く、総合的な診療を行います。慢性腎臓病患者さんには、看護師、管理栄養士、腎臓病療養指導士、腎臓病薬物療法認定薬剤師とともに療養指導を行い、腎臓病の進行阻止を目指しています。末期腎不全に至ることが予測される場合には、適切なタイミングで個々の患者さんに最適な腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎臓移植）へ移行できるよう、腎代替療法指導に力を注いでいます。透析患者さんは心血管病や糖尿病などの合併が多いため、他の診療科と連携して診療を行います。

医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート

医長
篠﨑（しのざき）　康之（やすゆき）

【（患者さんに向けた）一言】
・患者さんにとって最善の医療を行います
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、膠原病、高血圧、透析
【専門医資格】
総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、リウマチ専門医、腎代替療法専門指導士

医長
舟本（ふなもと）　智章（ともあき）

【（患者さんに向けた）一言】
・常に最善を尽くせるように努めていきます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、高血圧、透析
【専門医資格】
認定内科医

医長
牧石（まきいし）　祥平（しょうへい）

【（患者さんに向けた）一言】
・患者さん一人一人に寄り添った医療を行います
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、高血圧、透析
【専門医資格】
認定内科医

医師
清水（しみず）　英子（あやこ）

【（患者さんに向けた）一言】
・わかりやすい診療を行うように努力します
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、高血圧、透析
【専門医資格】
総合内科専門医、腎臓専門医

医員
海古井（かいこい）　大智（だいち）

【（患者さんに向けた）一言】
・丁寧な診療を心がけます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、高血圧、透析
【専門医資格】
内科専門医

医師
小川（おがわ）　晃寛（あきひろ）

【（患者さんに向けた）一言】
・患者さんを第一に考えた医療を行います
【自身の専門性（手技他）アピール】
・腎臓病、高血圧、透析

外来診療担当表

	月	火	水	木	金
初診	篠﨑		牧石 / 清水	舟本	
再診	牧石	篠﨑 / 清水	舟本	牧石 / 海古井	篠﨑

在宅療養支援室・フットケア外来のご紹介

内分泌・代謝内科外来は、1型糖尿病、若年発症糖尿病、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、高度な合併症（糖尿病網膜症による視力障害、腎症による透析治療など）を伴っている糖尿病の患者さんや、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症、高血圧症などの患者さんが多く受診されています。在宅療養支援室では医師の指示のもと、インスリンやGLP1受容体作動薬の自己注射や自己血糖測定導入時の指導と、安全に自己管理が継続できるような支援を行っています。またFreeStyleリブレやDexcom G6などの持続血糖モニター（CGM）などの新しいデバイスを使用し、患者さんと一緒に良好な血糖管理が行えるように考えています。患者さんの様々な生活の変化に応じたアドバイスを行い、患者さんとの信頼関係を大切にして支援を続けていきます。

療養支援の1つとして、フットケア外来では、糖尿病足病変予防を行っています。糖尿病足病変には、足趾間や爪の白癬症、足や足趾の変形や胼胝、足潰瘍および足壊疽まで幅広い病態があります。フットケア外来では、これらを早期に発見し、血流障害や神経障害の評価などを行い、重症化を予防するため、足の手入れや観察方法、日常生活の留意点などについてアドバイスいたします。

自己管理が困難な方(一人暮らし･ご高齢)には、包括支援センターの紹介や地域連携室を通して訪問看護ステーションとの連携、医療から保健への糖尿病保健指導依頼の手続きを行い、保健師訪問を予定していきます。

地域の医療機関との連携を図り、生涯にわたって患者さんの健康維持に努め、合併症の発症や進展予防のために、治療の節目にあわせて、自己管理状況の確認や療養支援を行っています。

他にも、在宅療養支援室を中心に、糖尿病医療に関わる院内や地域の医療従事者の方を対象に「糖尿病療養指導のための講習会」を定期的に開催し、糖尿病患者さんの療養支援ため、知識のアップデートや情報交換を行っています。

視力障害や神経障害を伴う方、外反母趾、足底部の難治性潰瘍、蜂窩織炎の症例

関節固定術後、足病変再発予防につとめている

	在宅療養支援室	フットケア外来
外　来	月～金	月～金 12:00～13:00　14:00～15:00
対　象	糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症、高血圧症などで、当院内分泌・代謝内科外来通院中の方ならびにご家族	当院通院中の糖尿病の方で、 ①足潰瘍などの既往 ②閉塞性動脈硬化症 ③糖尿病神経障害 のいずれかを有し、医師がフットケアが必要と判断された方
方　法	医師の指示内容に添って療養支援に関するアドバイスをします	足の状態の観察 足のケア（足浴、爪切り、角質ケアなど） 足のトラブル予防
担当者	日本糖尿病療養指導士　糖尿病看護認定看護師	
場　所	内分泌・代謝内科外来　在宅療養支援室	

お知らせ

1 連携談話会・症例検討会のご案内

12月開催予定

第23回 在宅緩和ケア懇話会
日 時：令和5年12月4日（月）18時30分から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★第174回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和5年12月7日（木）17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和5年12月11日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和5年12月14日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

中央病院眼科病診連携症例検討会
日 時：令和5年12月18日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央診療棟3階 35会議室

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和5年12月5、12、19、26日（火）
16時30分から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

1月開催予定

★第175回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和6年1月4日（木）17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和6年1月11日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和6年1月15日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和6年1月18日（木）17時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★第126回 漢方症例検討会
日 時：令和6年1月19日（金）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

呼吸器キャンサーボード
日 時：令和6年1月9、16、23、30日（火）
16時30分から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★…医療機関スタッフの方々の公開学習の場としています。
お気軽にご参加ください。

2 12月の外来診療に関する医師不在日

科　名	医師名	不在日
循環器内科	丸山医師	1日(金)
	音羽医師	1日(金)、12日(火)、13日(水)
消化器内科	松田(耕)医師	1日(金)
内分泌・代謝内科	吉澤医師	1日(金)
感染症内科	彼谷医師	4日(月)
精神科	野原医師	1日(金)、8日(金)
整形外科	丸箸医師	1日(金)、4日(月)~8日(金)、11日(月)、12日(火)
脳神経外科	齋藤(祥)医師	4日(月)
産婦人科	南医師	1日(金)
	草開(友)医師	1日(金)
皮膚科	八田医師	8日(金)
耳鼻いんこう科	吉川(智)	4日(月)
歯科口腔外科	小島歯科医師	11日(月)
放射線診断科	金谷医師	12日(火)
放射線治療科	豊嶋医師	1日(金)
	髙医師	1日(金)

3 受診にあたってのお願い

日頃より、地域連携室業務に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。時折、予約なく診療情報提供書をお持ちになって来院され、当日の受付枠がいっぱいで、後日の予約を取ってお帰り頂く場合があります。ご面倒でも、受診前に地域連携室にお電話いただき予約をお願いします。その際には診療情報提供書を事前にFAXいただきますと診療までの待ち時間の短縮にもつながりますので、ご理解とご協力を賜りたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

11月になりました。秋の季語に「冬隣（ふゆどなり）」があるそうですが、夏の隣では？と思える気温の高い日が続いております。それでも、令和5年も、あと2ヶ月。今年こそ、大晦日をゆっくりと過ごしたく、休日の天気予報を眺めては、年末の大掃除を始めました。推しの、音楽を聴きながら、窓をふきつつ、語学に挑戦したいなと、早くも来年に思いを馳せております。日毎に、朝夕の気温が低くなっていきます。どうぞ、体調管理にはお気をつけてお過ごしください。

地域連携室社会福祉士
山下絵理子

ハゼノキ
撮影：地域連携室看護師 吉田 弘子

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院
地域連携室
○代表電話　076（424）1531／内線3177
○予約専用　076（491）7160
○FAX　076（491）7109

がん診療に関する相談支援センター
ホームページアドレス　https://www.tch.pref.toyama.jp/
地域連携室（医療機関向け）電話076－424－1531／内線3177
メールアドレス　chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp
医療相談室（患者・ご家族向け）電話076－424－1531／内線9130・9307
メールアドレス　kango@pref.toyama.lg.jp